

20世紀の思想・文化をまとめるため、以下の大学入試問題を解いてみよう。

【1】2013 早稲田大学 (抜粋) 太字は著者による。

- 問10 20世紀の音楽、映画、絵画に関する次の記述を読み、適切でないものを2つ選べ。 問10 c, d
- マティスは、単純化された構図と豊かな色彩を特色とする**野獣派**の画家である。
  - シケイロスらは、**インディオたちの感性と社会主義思想を組み合わせた民衆的な表現手段**として絵画運動を起こした。
  - ピカソとブラックは超現実派を創始して、具象にとらわれない衝撃的な手法を使った。
  - ビートルズは、1950年代の若者文化の象徴的な存在となり、新鮮なリズムと美しいメロディーにあふれた自作音楽を演奏した。
  - チャップリンは、**ユーモアと批判精神**にあふれた作品を作り、その代表作は『独裁者』、『モダンタイムズ』である。
- 注：ピカソとブラックは立体派 (キュビズム)。ビートルズのデビューは1962年である。

以下は18、19世紀に関する出題を含むが、密接な関連があるのでここで扱う。

ここにも登場するエドワード・W・サイード (1935～2003) は、パレスチナ系アメリカ人の文学研究者、文学批評家。主著の『オリエンタリズム』でオリエンタリズムの理論とともに**ポストコロニアル理論**を確立した。彼はまたパレスチナ問題に関する率直な発言者でもあった。

【2】2016 名古屋外国語大学 (抜粋) 太字は著者による。 問9 ② 問10 ⑤ 問11 ②

- (5) 18世紀後半、ヨーロッパは激動期に入る。イギリスにおける産業革命、フランスにおけるフランス革命などがもたらした市民層の興隆は、文化面でも大きな変化を生むことになった。市民文化の登場と成熟がみられたのである。こうした流れの中から人間の個性や感情を重んじるロマン主義が登場し、19世紀に本格化した。ロマン主義の時代は同時に、ヨーロッパ各国が世界を支配する傾向を強めた時代でもあった。それとともに、**ヨーロッパ以外の地域はヨーロッパとは対照的な後進的かつ停滞した世界であり、それがゆえにまた異国情緒的な魅力を持つ世界とも捉える発想**も生まれた。後年、**A**はこうした発想を差別意識に満ちた**オリエンタリズム**として厳しく批判した。**A**は**ロマン主義もこのオリエンタリズムとは無縁ではなかった**ことを、ロマン主義絵画の画家**B**の作品「アルジェの女」の分析を通して示したのだった。

19世紀後半には、比較的短期間のうちに様々な美術様式が次々と登場してくるが、とりわけ世界的な影響力を誇ったのがフランスの印象派であった。こうした中、1867年のパリ万国博覧会以降、日本趣味、いわゆる「ジャポニスム」が流行したことが注目される。日本美術の影響を受けた画家も多く、例えば、ゴッホは「タンギー爺さん」で背景に日本の浮世絵を写しているし、1874年の作品「印象・日の出」によって印象派という言葉が生まれるきっかけをなした画家**C**は、和装した女性を描いた「ラ=ジャポネーズ」と題する絵を残している。

- 問9 **A**に当てはまる、1978年の著書『オリエンタリズム』で**ポスト=コロニアル研究**に大きな刺激を与えたアメリカの著作家は誰か。次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

① フロイト ② サイード ③ レヴィ=ストロース ④ ブローデル ⑤ デューイ

- 問10 **B**に当てはまる画家は、七月革命を描いた「民衆を導く自由の女神」やギリシア独立戦争を舞台とする「キオス島の虐殺」などの作品でも知られている。フランスにおけるロマン主義絵画を代表するこの画家は誰か。次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

① ミレー ② ダヴィド ③ シケイロス ④ ファン=ダイク ⑤ ドラクロワ

- 問11 **C**に当てはまる、晩年の連作「睡蓮」でも知られるフランス印象派の画家は誰か。次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

① ゴーガン ② モネ ③ マネ ④ ピカソ ⑤ マティス

## 私たちはどこまで来たか

- 1) 第二次世界大戦終結後、新秩序形成期の中で、**冷戦**が始まり、東アジアでは朝鮮戦争 (1950～53) が勃発した。1960年代から70年代は、少なくとも「先進国」では人々は社会に内在された課題の解決に向けて動き始めた。アメリカ合衆国では1960年代に**公民権運動**が高揚し、日本では**公害反対運動**が起きた。近代社会は「平等の人権」を掲げながら、実際には人種や性による差別を許容し、環境汚染によって発生した社会的費用を国民や被害者に負担させた。このような社会を「モダニズム (近代主義) がその成立の条件を失った (と主張者がみなす) 時代」と捉える立場を**ポストモダン** (英: Postmodern) と呼び、そのような時代を背景として成立した、近代を根本的に批判する文化上の運動のことを**ポストモダニズム** (Postmodernism) と呼ぶ。主に哲学・思想・文学・建築の分野で用いられる表現である。

建築においても、モダニズム建築への批判から提唱された**ポストモダン建築**という建築のスタイルが存在する。合理的で機能主義的となった近代モダニズム建築に対し、その反動として現れた**装飾性、折衷性、過剰性**などの回復を目指した建築のこと。当初「ポスト・モダニズム」と表現されたが、のちに「ポスト・モダン」で定着。1980年代を中心に流行したが、現在ではあまり使われない。わが国の建築例としては、江戸東京博物館 (菊竹清訓、1993年開館) など。東京都庁舎 (丹下健三、1990年竣工) もデザインとしてはポストモダンに属するとも言われている。現在、トイレの水道管の破裂や絶え間ない雨漏りといった外観からは想像もできないトラブルが続出していると言われている。

しかしながら、「モダニズム (近代主義) がその成立の条件を失った」とされる根拠はどこにあるのだろうか。アメリカ合衆国の政策を転換させる一因となったベトナム反戦運動、「革新自治体」を生み出した日本の住民運動・反核平和運動など1960年代・70年代における市民運動の高揚は正統的モダニズム (近代主義) を継承するものではないのか、という疑問は当然にある。

- 2) ソ連邦の崩壊はマルクス主義の影響力の低下を招いたと、様々な文献に書かれているが、No.215の末尾に記したように、最末期のソ連は既に古典的マルクス主義の政治哲学にさえ合致しない、社会主義とは似ても似つかない独善と教条と私利私欲に満ちた官僚国家に転落しており、そのことはNo.210・211で述べた崩壊の過程や崩壊後の状況からも明らかである。ソ連の崩壊はマルクス主義の崩壊を全く意味しない。
- 3) 1953年生まれの本著者が少年だった頃、近所には、身寄りのない障がいを持ったお年寄りが民家の軒先を延長したさしかけをトタン板で囲っただけの小屋に垢まみれで暮らし、知的障がいのある男性が無給で重労働させられ、家畜小屋に寝泊まりしていた。当時の日本には**社会福祉**はほぼなかった。
- 1957年には、あまりにも低額な生活保護給付が憲法第25条に違反すると主張する朝日訴訟が起こされた。小学校で「揺りかごから墓場まで」のイギリスの福祉政策や誰も生活に困窮することのない北欧の社会について学んだ当時の小学生たちは、日本は今こんなに貧しくても、経済的発展を実現した暁には必ずや理想的な社会が実現すると信じていた。将来の夢を聞かれると、多くの児童はそのような社会の構築に最も貢献できるエンジニア、「タイピスト」、工場労働者などになりたいと答えた。しかし、「揺りかごから墓場まで」は、1980年代には完全に放擲ほうてきされた。No.205で述べたように、1980年代以降は「**小さな政府**」の時代で、市場における自由競争を重視する**新自由主義**が採用された。レーガン政権、サッチャー政権、コール政権、そして中曽根康弘政権がそれである。No.213でのべたように、新自由主義の経済政策を本格的に実行した最初の政権は、1973年、アジェンダ政権を軍事クーデタで倒したピノチェト政権であり、それは明白に大失敗だった。
- 4) 世界規模で**新自由主義**が実行された結果どうなったか。国の内外で膨大な所得格差が生み出された。No.206で述べたように、日本では土地バブルが起き、1991年には深刻な経済危機を引き起こした。また、日本では1986年に施行された労働者派遣法で、派遣元が労働者を他社に派遣する形態が広範に認められた結果、派遣労働者が急増、2008年の暮れには大量の「派遣切り」が実行され、年末から2009年の年始にかけて、複数のNPO及び労働組合によって組織された実行委員会が日比谷公園に「年越し派遣村」を開設した（一種の避難所）ことは記憶に新しい。新自由主義の政策は、こうした格差の発生を当然視し、それにはセーフティネットに対応するとしているが、そのネットは大穴だらけである。
- 5) 21世紀、今や「**ラディカル=ポリティクス**」※1とでも名付けうる政治手法が世界を席卷している。落ち着いた社会では常識的にありえないことが実際に次々と起きている。 ※1 著者独自のネーミングであり一般には通用しない。
- 最大の例は、アメリカにおける**トランプの大統領当選**である。アメリカ・ファーストとは従来、軍事的にも理想的にも世界をリードし、理想のためには相当の出費も厭わない「世界保持者」の役割を自認してきたアメリカが、自国の国益を第一に考えて政策決定することである。具体的には、法人税を大幅にカット、TPPを即時離脱。移民に反対しシリア難民の受け入れを拒否、ムスリムの入国も拒否、メキシコ国境に壁を作ると発言。台湾総統と電話会談して中華人民共和国から猛反発を受け、重要なのは環境問題ではなく経済だからとパリ協定から離脱。「オバマケア」も後退させる。これまでの流れからはほぼあり得ない事ばかりである。トランプは何故当選できたのだろうか。①アメリカでは、「メキシコの不法移民は犯罪者でレイブ犯だ」「イスラム教徒の入国を禁止しろ」といったような差別発言はタブーで、考えることもいけなかったが、トランプが言ってしまった。本当はそう言いたくてたまらなかった人々が、代弁者として支持した。②保守的な白人層は、トランプ氏が差別的な公約を掲げても自分には関係ないからそれほど気にならない。③「既存の政治家」イメージのクリントン氏が大統領になっても何も変わらない。トランプだったら、もしかしたら何か変わるのではないかという既存の体制を壊したいという衝動。忘れた方は本書No.184を参照して欲しい。ナチ党が政権を取った時と共通点がある。
- 「ラディカル=ポリティクス」は日本でも現実のものとなった。安倍晋三内閣は、安全保障関連法案を2015年に可決（16年施行）させ、**集団的自衛権**を認めた。これは戦後日本がブレずに維持してきた「専守防衛」の政策を放棄するラディカルなもので、憲法学者の大半が違憲と断じた。「**専守防衛**」とは防衛上の必要があっても相手国に先制攻撃を行わず、相手の攻撃を受けてから初めて軍事力を行使し、相手国の根拠地への攻撃（戦略攻勢）を行わない戦略である。これは自衛隊合憲論を前提に、戦力不保持・交戦権否認を規定する日本国憲法第9条と整合性を持たせた軍事戦略であり国民的支持を得て、厳しい訓練に明け暮れる自衛隊員の精神的バックボーンであり、アメリカでさえこれに配慮してきた。更に2017年、安倍晋三内閣は、「国際的な組織犯罪の防止に関する国際連合条約」（2000年採択）の批准に必要であるとして「**共謀罪**」を創設した。「共謀罪」とは、4年以上の懲役刑に該当する犯罪 ※2 について、「共謀」すると原則2年以下の懲役刑 ※3 に処される。「未遂」以前の、「予備」以前の、「話し合っただけ」とみなされる段階で犯罪が成立する。これは、普通に考えて罪刑法定主義という大原則さえ担保できないもので、治安維持法（1925年制定、28年改悪）下の暗黒社会への深刻な反省から出発した戦後日本の法制度の枠組みを破壊するもの。広範な国民も日弁連も反対したのだが、「テロ対策」の名の下に強行した。安全保障関連法案も「共謀罪」創設も、戦後連綿と受け継がれてきた国民的合意が使用済みティッシュのように何のためらいもなくうち捨て去られた。また、個人的な人脈を国政より優先させて恥じない驚くべき時代錯誤に陥っている。このようなことが可能となった背景には、①庶民にとっての景気回復が遅れ、生活苦が増す中で、何か景気が良くなることをしてくれるんじゃないかという根拠のない期待と②マスコミの機能劣化がある。トランプが当選できた理由と似ている。私たちは、いま**非常に危険な**ところまで来てしまった。
- ※2 600種類以上ある。懲役4年以上の犯罪には、窃盗、収賄、傷害、詐欺、恐喝、有印私文書偽造などの犯罪も含まれる。  
 ※3 死刑、無期、10年以上の懲役に該当する犯罪に限っては、懲役5年以下。
- 6) 福島第一原発では、地震で崩壊し高度に核汚染された地下構造物を山側から来た大量の地下水が通り、毎日数百トンの汚染水が海に注いでいると推定されている。このような地球規模の環境危機を目の当たりにすると、近代以来の「社会の進歩」に対して非常に懐疑的になる人も多いだろう。迷った時に、私たちが読み返すべきは、世界史Bの優れた教科書と日本国憲法ではないだろうか。私たちが「非政治」の世界に逃げ込んではいならないことは、もはや明らかである。黙ってしまうことと未熟ではあっても何かを発信することには千歩の差がある。読者の大半は高校生か中等教育学校後期課程の生徒さんだと思うが、「世界は君たちのものである」を現実にするか否かは皆さん自身の行動にかかっている。大学入試を乗り越えるまでは何も出来ないだろうが、大学生になったら、曇りのない眼と学問の力で社会をよく見ることから始めよう。今はそのための力を蓄えよう。皆さんの、近未来の奮闘に期待して、世界史B通史講義の最後の言葉とします。